

## ボードイン家に新たな家族 *The Beaudoin family's newest addition*

January 20, 2017

By Airman 1st Class Juan Torres  
374th Airlift Wing Public Affairs

1月7日午前7時8分頃、横田基地で今年初の赤ちゃん、ビートリス・M・ボードインが7ポンド12オンス(約3229グラム)で誕生した。

「ビートリスは、その日に生まれた赤ちゃん4人のうち、最初に生まれた」と話す国際港警備連絡官であり新生児の父親ケビン・A・ボードイン アメリカ沿岸警備隊大尉。「(4人もの赤ちゃんが一気に誕生した)この日はどうしたことだろう」とおどけて見せた。

横田基地では、年間約180人の赤ちゃんが生まれている。この種の仕事はストレスの多い仕事にも見えるが、その従事者にとってはとてもやりがいのある仕事だ。

「新生児と対面した時の純粋な気持ちは、ほかの何にも例えられない。産科の看護師として、人の生命の誕生の特別な瞬間に立会える稀な機会を得て、子と対面する興奮と喜びを目の当たりにできる」と第374外科運用中隊看護師エムリン・マン大尉は話す。

出産予定日が今年の1月26日でありながら、予定よりも早く、ビートリスを5人目の家族として迎えられたことは驚きだった。

「この子が今年、横田基地で生まれた最初の赤ちゃんだということに驚きました。年が明けて少し経っていましたし、嬉しい驚きです」と新生児の母ジャスミン・A・ボードインは言う。

「抱っこさせて」と興奮気味にせがむケビンとジャスミン・ボードインの5歳の娘シャーロット・N・ボードイン。

「2人の娘たちは、新しく生まれてきた妹に興味しています。家に新しい赤ちゃんを迎えて、これまでよりもしっかりしていこうと楽しみに心構えています」とジャスミンは言う。

ジャスミンは、幼少期に横田に住んでいたことがあり、横田で赤ちゃんを出産できたことは彼女と家族にとってなお更意味深い。

海外で出産することは大変なことにも思えるが、第374医療群はすべての患者に可能な限りの最良のケアができる体制を整えている。

「複合サービス入院患者棟の看護師や技師たちは、母子に対して24時間体制のケアを提供している。優良なケアを提供し、それぞれの家族の目標を叶えられるように努めている。看護師と技師たちは、産科医や小児科医、また栄養療法、薬剤、臨床スタッフなど病院の全てのスタッフと共に、それぞれの家族が可能な限り最高の出産ができるよう最善を尽くす」とマン大尉は話す。

第374医療群の支援を得て、ボードイン一家は人生における特別な瞬間を可能な限り最良に過ごすことができた。

「出産も人生の中ではあっという間に過ぎていくものです。人生でそう何度もあることではありません。出産が人生の中で、またとない時となるという意識を持って一瞬一瞬を大事にする必要があります。私にとって、それらの瞬間は最も気持ちが満たされるものです」とジャスミンは言う。



母の腕の中で眠るビートリス・M・ボードイン。今年、横田基地で生まれた最初の赤ちゃん。



カメラに向かってポーズする新生児の娘ビートリスと両親のケビン・ボードイン大尉とジャスミン夫人